2017 6/23 日刊ゲンダイ

本戦1回戦はAI将棋の強敵

「増田四段に連勝すれば勢いが加速するでしょうが、その先に待ち構える阿久津主税八段、久保利明王将に勝つのは相当厳しい」（棋界関係者）

師匠の杉本昌隆七段（48）は「いい時は手が付けられないぐらい強い」と褒めちぎっていた。好調を維持できるか。

（7ページに関連記事）

2%ダウン

不足感が強く、雇用改善の恩恵が見られず、この1年の、賃上げ率は特に昇進ポストに見られている。出世できないほど遠いはずの役職者が賃金押し下げ要因となっていると推察されます。

恐らく、賃上げの恩恵にあずかっているのは新卒生などごく一部。優秀な世代の給料が増えれば、ほかが減っているので賃金が低迷するのは当然。

バブル世代が大企業から掃されるまで、この傾向は続くでしょう」

もっとも、給料が上がらないからといってヘソを曲げるのは得策ではない。安倍政権は「解雇の金銭解決」などを導入しようとしているが、安易に飛びつくと痛い目に遭いそうだ。

「今後、日本企業は解雇ルールが明確化され、職業訓練を含めた転職支援も充実していくと思います。ただ、ビジネススキルが乏しいと自覚しているサラリーマンは、出世の目を断たれたとしても、我慢して会社にしがみついた方がいい。転職すると所得水準が下がる可能性があります」（永浜利広氏）

賃上げなんか夢のまた夢。初めからそう割り切っていれば振り回されずに済む。

＜新連載①＞

築地移転20年目の真実

1級建築士 水谷和子

▶みずのや・かずこ 2009年から豊洲市場汚染地購入賠償請求裁判に原告参加。最新著は「築地移転の謎　なぜ汚染地なのか」（花伝社）。

小池都知事が「築地・豊洲両市場の両立」という方針をようやく打ち出しましたが、そもそも築地市場はなぜ、あの好立地からの移転を迫られたのか。1986年に東京都は現地での施設再整備を決定。91年から営業を続けながら改築工事を進めていたにもかかわらずです。

工事が止まったのは、96年のこと。すでに再整備に400億円がつぎ込まれていました。中断の理由は次の通りです。

当初2380億円で予定された費用を再試算すると、3400億円にも膨らみ、工期も14年の予定が20年以上に延びる。

174個の段ボール箱から見つけた新たな証拠

私は今年、市場問題を調査する都議会の百条委員会に提出された段ボール箱174個分もの資料のリストから、「これは……」と思える資料は情報開示請求して改めて確認。根気のいる作業でしたが、20年続いたウソを裏付ける証拠資料をようやく手に入れました。

その証拠を提示しながら、4回にわたって「築地移転20年目の真実」をひもといていきます。

最初の証拠は、99年5月11日付で都の市場当局が作成した「中央卸売市場の事業説明の概要」と題した会議資料です。10枚のA4判用紙には、ちょうど1カ月前に都知事に当選したばかりの石原慎太郎氏や、当時は特別秘書だった浜渦武生氏のほか、福永正通、青山佾両副知事（当時）らの臨席が記録されてあります。

当日午後2時35分に都庁7階の小会議室で始まった事業説明。約25分に及ぶ説明のテーマは、築地市場の現在地再整備のみ。石原都知事らに配られた「局の概要」との資料には〈積立金の状況〉として約3005億円。その内訳について一般会計に既に400億円を貸し付け、さらに99年度に2000億円を貸し付ける旨が記してある。

この予算の説明こそ、「築地のウソ」の大きな一歩となったのです。

（つづく）

場内に「種地」がなくて営業を続けながらのローリング工事を進めるのに、業界の調整は困難―。ところが、その後20年間、築地の業者さんたちを縛り続けた「再整備は不可能」とするストーリーが、実は単なるデッチ上げである疑いが濃厚になってきたのです。

機内で

航空法違

飛行中の旅客員に暴行したと豊見城署は21日疑などで無職（78）＝長野県松た。唐沢は「酔ない」と供述し

逮捕容疑は3半ごろ、成田発本航空741便ボ